

市民活動団体と鎌倉市による協働事業
平成25年度実施分

事業評価

鎌倉市協働事業選考委員会

平成25年度に実施された協働事業の事業評価

《概要》

平成26年5月23日(金)午後1時から、鎌倉市役所全員協議会室において「市民活動団体と鎌倉市による協働事業実施報告会」(平成25年度実施分)を開催し、協働した団体及び担当課から各事業の結果報告が行われました。

その報告を受け、同日午後3時から「鎌倉市協働事業選考委員会」を開催し、それぞれの事業評価を行いました。

委員会における事業評価の内容は以下のとおりです。

なお、評価を行った委員会の委員は次のとおりです。

《鎌倉市協働事業選考委員会 委員》

委員長 志村 直愛 東北芸術工科大学 教授

副委員長 土屋 真美子 特定非営利活動法人アクションポート横浜 理事

委員 田畑 秀敏 公募市民

委員 渡邊 公子 特定非営利活動法人鎌倉市市民活動センター運営
会議 理事長(事業評価欠席)

委員 梅澤 正治 鎌倉市市民活動部 部長(報告会・事業評価欠席)

《実施事業》

- | | | | |
|---|---------------------------|---------|----|
| 1 | 認知症相談事業 | (3カ年実施) | 2P |
| 2 | 障害者就労支援員(ジョブサポーター)養成・派遣事業 | (3カ年実施) | 3P |
| 3 | 就労困難若年者就労支援事業 | (1カ年実施) | 4P |

1 認知症相談事業

★評価の高かった点

- ・先駆的で協働事業らしい取り組みだ。
- ・専門家が認知症というテーマに取り組み、相談しやすい環境を作ったという点が市民活動ならではの事業である。
- ・行政の役割の一部を担っていた。
- ・団体と担当課の役割分担が上手に出来ていた。
- ・地域包括支援センターなどへのつなぎは出来たのではないか。

★評価の低かった点

- ・毎年、事業の周知が課題、問題として挙がる。ケーブルテレビや自治会への回覧などはすぐに取り組めたのではないか。
- ・事業周知の方法については、団体と担当課で合意形成ができていなかったのではないか。
- ・専門家でなければいけないこと、専門家が望ましいこと、傾聴でも大丈夫なこと、隣近所でもいいことなどランク付けして、それぞれにどのくらい的人数が必要であるかなどを報告しても良かったのではないか。

★今後に向けての課題点

- ・課題を共有できているので、協働事業終了後もこの関係性を継続して、どう生かすか。次の可能性を考えることも必要ではないか。
- ・市民協働の実績をいい形で次につなげていけるような仕組みを考えてみてもいいのではないか。
- ・地域包括支援センターではなく、市民、NPOだから出来ることもある。もう一步踏み込んで次につなげてもらいたい。

《総合的な評価》

3年の事業を経て、団体、担当課、地域包括支援センターの役割がきちんと分担できている。課題も共有できているため、この関係性を継続して、今後の新しい取り組みにつなげることが出来ればいいのではないか。認知症への取り組みはこれからも継続して行われるべきであることから、次につなげるための課題をきちんと残すことも必要である。

2 障害者就労支援員（ジョブサポーター）養成・派遣事業

★評価の高かった点

- ・きめ細かく、相手に寄り添った市民ならではの事業であった。
- ・協働事業としての3年間は終了するが、市が必要な事業と判断し、委託ではあるが継続したことも評価できる。
- ・市と団体が互いに協力し合い、真摯にやっていたことがうかがえる。

★評価の低かった点

- ・調査やPR活動が多かったように感じる。
- ・どの活動がどの就労に結びついたのかが分かりにくかった。
- ・養成によりジョブサポーターが何人増え、どのような活動をしたのか、具体的な内容を報告した方が良かったのではないか。

★今後に向けての課題点

- ・鎌倉ならではの新しい仕組みに発展していけばいいと思う。
- ・障害者への理解を深めてもらうための啓発も積極的に行ってもらいたい。
- ・委託ではあるが、今後も継続していく事業である。これまで積み上げた経験を整理して課題として出せば次につながるのではないか。

《総合的な評価》

3年間、時間をかけて着実に事業を進めてきた。ジョブサポーター養成・派遣の取り組みは全国的に行われているが、市民と一緒に取り組んだということは新しい。鎌倉ならではの仕組みに出来るのではないか。

当事者の親として経験したことを、大事なメッセージとして残すことが出来れば、次のステップになるのではないか。

3 就労困難若年者体験就労支援事業

★評価の高かった点

- ・団体の熱意、熱心さは評価できた。
- ・重いテーマに若者が取り組んだという点で非常に意味のある事業であった。また、3件の事業所が就労体験を受け入れたという成果も大きい。
- ・門前払いも含め、100社強の事業所を訪問したという点では多くのデータ収集ができたのではないか。
- ・フライヤー（ちらし）などをきちんと作成し、受け入れ企業を見付けるための努力はした。
- ・企業を訪問して、説明して、理解してもらおうという動き方が、きちんとやっているという点では一番分かりやすい。
- ・協働事業を経験したことによる団体の成長が著しかった。

★評価の低かった点

- ・事業所の選択なども含め、事前にもう少し戦略を練った方が良かった。
- ・目標であった事業所3件の発掘は達成したが、それが就労体験につながったのかが分からない。
- ・市との協働事業であるというメリットをもっと生かせばよかったのではないか。
- ・あたってくださる的な印象である。社会貢献の認定企業を発掘するという仕組みならこのやり方でも良かったと思うが、この事業ではもう少し丁寧さが必要ではないか。
- ・もう少し、担当課と団体のコミュニケーションがとれていれば良かったと思う。

★今後に向けての課題点

- ・受け入れ事業所の少なさは、事業所にとってメリットが見出せないことも原因の一つであると思う。受け入れ事業所はポスターの裏に社会貢献認定企業として掲載するなど、事業所にメリットを与えることも必要である。
- ・受け入れを拒んだ事業所に追跡アンケートをするなど、何故、駄目だったのかの理由を把握することが次につながる。
- ・大事なテーマであり、国や県などの補助も増えているので、形を変えて事業化することも考えられるのではないか。

《総合的な評価》

若者が仕事を持ちながら非常に重いテーマに取り組んだことはとても評価できる。受け入れ事業所に対するインセンティブや顕彰手法の必要性など、事前にもう少し戦略を練っていれば更なる効果があったのではないか。

100社の事業所を訪問した経験は貴重であり、収集したデータを分析すれば次につながる。